

新しい
“
ネットワーク生活”
を見つけて
出せ

最新

インターネット技術が もたらす

ライフスタイル革命

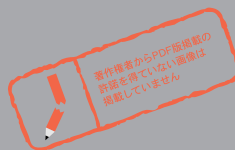
第2回

“場所”という縛りがなくなった生活

家や仕事場では常時接続、高速通信が当たり前になってきた。今度はその環境を外に持って行こう。そうすることでインターネットが生み出す、また一味違う価値があるはずだ。今回は、ほとんどのノートPCに搭載され始めた無線LAN機能と、街中にあふれ始めている「ホットスポット」を使った新しい価値を探してみる。

インターネット生活研究所

この連載は、インターネットによって生活に新たな風を吹き込むことを目的としたシンクタンク「インターネット生活研究所」によって作られています。このシンクタンクの研究者は、インターネットを生活に活かしている一般の方を中心に構成され、誰でも参加可能。詳しい活動内容は [URL](http://internet.impress.co.jp/iil) <http://internet.impress.co.jp/iil> にて報告しています。



“どこからでもアクセスできる”が生み出す価値



“インターネット生活”に欠かせない
アクセス技術「無線LAN」

最近ファーストフード店やコーヒーショップで「HOTSPOT」などと書いてあるステッカーを見かけたことはないだろうか。これは無線LANアクセスポイントを備えた飲食店などに貼られているもので、無線LAN機能を搭載した、パソコンを持って行くだけで、LANケーブルなどを使うことなく、また契約のISPに関わらずインターネットにアクセスできるお店であることを示しているものだ。現在、たとえばNTTコミュニケーションズの無線LANアクセスサービス「ホットスポット」を提供するお店が月100件以上のペースで増えているなど、このようなお店がいたるところにできている。ほかにも下図のように多くの場所で無線LANが使われるようになった。これはつまり無線LAN技術によって、パソコンさえあれば好きな場所からブロードバンドインターネットに接続できる環境が整いつつあると言っていいだろう。

前回、データをオンラインストレージに上げておき、好きなときに引き出せる、さ

らにはデータを好きな人と共有することで生まれる新しいライフスタイルを紹介したが、この便利さはそもそも“どこから”でもアクセスできなければ意味がない。たとえばNTTコミュニケーションズのオンラインストレージ「cocoa」と「ホットスポット」は、「CoDen」という1つのコンセプトの中で“対”になったサービスとして提供されている。つまり、オンラインストレージなどでインターネットの特性を使った新しい価値を生み出すとすれば、場所やISPに縛られないアクセス手段「無線LAN」はなくてはならない技術だと言えるのだ。

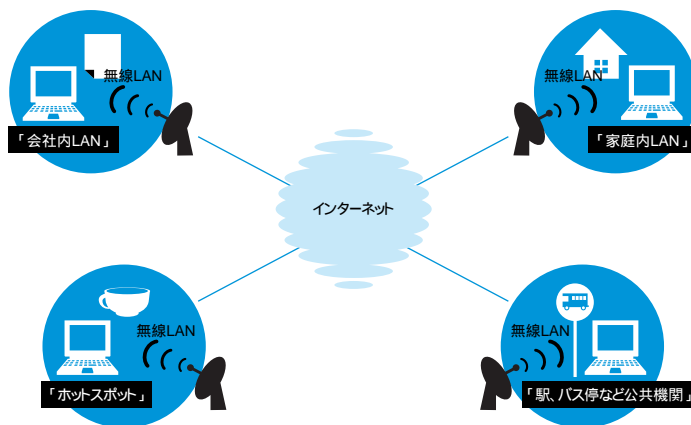
“無線LAN”は
まだまだ完成途中の技術

ただし、この無線LAN技術はまだ完成した技術とは言えない。たとえばスピード1つをとっても、現在もっとも普及している無線LANの規格IEEE 802.11bは11Mbpsが理論上の最高速度だ。100Mbpsの通信が当たり前となっている仕事場などのインフラ環境に比べると見劣りがしてしまい、「仕事環境をどこにでも

持って行ける」という、無線LAN技術の利点の1つを薄める結果にもなりかねない。そのほかにも、無線ゆえに起こる電波の混信の問題もある。

もちろん、これらの問題を解消するために無線LANは常に新しい技術を用意して対処しようとしている。具体的には無線LANの標準規格を決定する米国電気電子学会(IEEE)標準化委員会によってさまざまな対応規格が出されているのだが、まずスピードの面での改善を取り上げてみると、すでに多くのベンダーから対応製品が出ているIEEE 802.11gが目だ。この規格は最大54Mbpsの速度を達成しており、さらに802.11bとも互換性があることから、普及している802.11bのインフラを無駄にせずに使っていいというメリットもある。ほかにもIEEE 802.11n(仮称)と言われる最大100Mbpsの通信を可能にする無線LAN技術もすでに標準化作業の段階に入っている。次に、混信をどう解消するかといった問題だが、ここで重要になるのがIEEE 802.11aやIEEE 802.11hという規格だ。802.11aはすでに「ホットスポット」の一部などでも使

確実に広がりつつある無線LAN技術



おもな無線LANの規格

| | |
|-----------------|--|
| 802.11a | 5GHz帯の周波数を使って、54Mbpsの高速通信を行う規格 |
| 802.11b | 2.4GHz帯の周波数を使って11Mbpsの通信を行う規格 |
| 802.11g | 802.11bの高速版。2.4GHz帯で最大54Mbpsの高速通信を行う。 |
| 802.11n (仮称) | 100Mbpsの高速通信を無線LANで可能にする規格。詳細は未定。 |
| 802.11f | 移動しながら、複数の無線LANアクセスポイントを自動的に切り替える機能を追加する |
| 802.11h | 文中で説明したDCS機能などを802.11aに追加する |

える規格で、5GHz帯という高い周波数帯を使うことで、54Mbpsの通信速度を実現している。普及の進んでいる802.11bが使うのは2.4GHz帯で、この電波帯域が混雑してくると、使う人が少なく電波帯域に余裕のある802.11aが注目を浴びるかもしれない。802.11hはその802.11aにDCS(Dynamic Channel Selection)という機能を追加するものだ。この機能は電波帯域の状況を見て自動的に空いている帯域を選択するというもので、混信をより高度に防ぐことができるようになるのだ。

無線LAN技術を
いかに料理するかが重要

ではこの無線LAN技術という素材をどのように料理すれば、新たな価値を生み

出せるのだろうか。現在、話題になっているのはホットスポットを使ったVoIP(Voice over IP、いわゆるIP電話)だ。無線LAN上で行うVoIP製品はすでに品質の高いものがリリースされていて、音質や音声の遅延については携帯電話と同等かそれ以上の品質を実現できている。問題は、無線LAN上のVoIPを携帯電話のように歩行中などでも利用可能にする方法だ。これは無線アクセスサービス間のハンドオーバー(受け渡し)もしくはローミングが必要になるが、今後アクセスポイント間のローミングを実現するIEEE802.11fなどの規格が整えば、定額料金でかけ放題のインターネットを使った携帯電話という新しい価値が生まれてくるのだ。

ほかにもホットスポットのあるお店の前を通るとパソコンやPDAに自動的にお店



「モスバーガー」などのファーストフード店を中心に、毎月100件ベースで増えている「ホットスポット」はこのステッカーが目印だ。この調子でいけば、駅前のどこかのお店に入れば、必ずインターネットにつながる世界が実現しそうだ。

の情報が表示される、無線LANを使って常に電車の運行状況を配信して、乗り継ぎなどをスムーズにするサービスを行うなど、どこでもインターネットにつながり放題を実現する「無線LAN」という素材を使えばさまざまな料理法が思いつくはずだ。

無線LANを使うからこそ実現可能なライフスタイル

「ホットスポット」で会社の概念が変わった
経営コンサルタント 杉山伸朗さんの場合

「まず、好きなときに好きな場所を仕事場にできるようになったのが大きな変化ですよね。時間ができたら近くのコーヒーショップを事務所にして仕事。今では月に一度くらいしか会社には顔を出さなくなりました。」経営コンサルタントとして毎日日本中を飛び回っている杉山さんに「無線LANで生活にどんな変化が起こったか」と聞くと、開口一番このように答えてくれた。

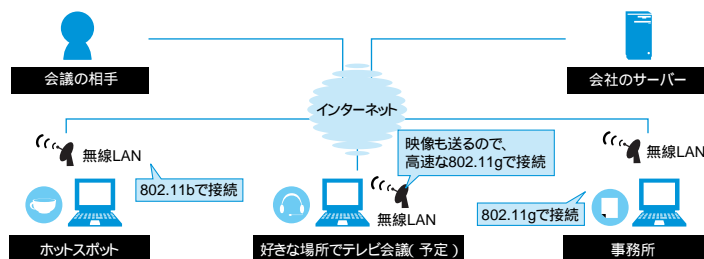
杉山さんは、このライフスタイルが会社という概念を変えてくれたとも言う。「会社というのはデスクがあってみんなが集まる場所だったんですが、今ではインターネットにアクセスできる場所、つまりホットスポットが会社になってしまいましたね。」さらに、杉山さんはホットスポットが高速通信を実現する802.11gに対応したときに

備えて、ある実験を行おうとしている。「ずばりテレビ会議ですね。さすがに会議となると、場所を指定して集まらなければいけない。でも、ホットスポットで高速通信を利用したテレビ会議ができるれば、会議までも自分の好きな場所ですることができますよね。今からテレビ会議システムをチェックしてみようと思っています。」



ホットスポットをバリバリに使いこなしている杉山さん。今日も、都内の某コーヒーショップを仕事場にしている。

杉山さんの無線LANライフ



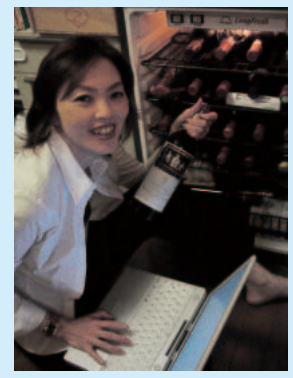
アドバイザーが常にそばにいてくれる生活
リシュモン・ジャパン 柿崎夕映さんの場合

1830年にスイスで誕生した高級時計ブランド「BAUME&MERCIER」などの腕時計を扱うリシュモン・ジャパンでマーケティングなどを担当している柿崎さんは、家に帰れば一児の母でもある。彼女は無線アクセスポイントを購入して、家庭内のLANを無線化して、家にいればどこからでもインターネットにアクセスできる環境を整えているのだが「キッチンでインターネットを使って仕事の資料を調べるなんてことをしているのですが、これは無線LANがないとできないことでした」と無線LANで変わった生活を語ってくれた。

ほかにも、「ワインが趣味でワインセラーを持っているのですが、今ではセラーの前までパソコンを持って行って、今持っているワインと比べながら購入するワインを決めています。今の時期ならどうい種類ワインが良いのかということなどもセラーの前で調べられるから、まさにアドバイザーが

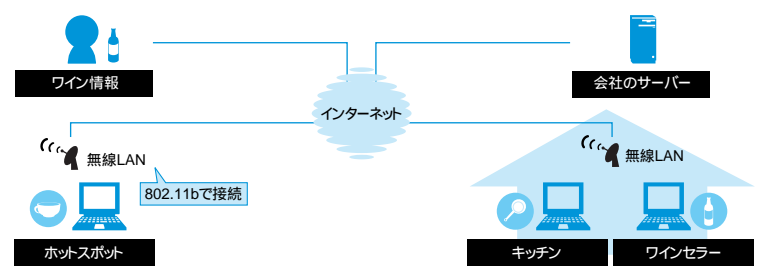
そばにいてくれる感覚ですよと趣味にも無線LANを活用しているようだ。

実は、柿崎さんは以前無線LAN技術に救われたことがある。「大事なプレゼンテーションなのに、直前になって資料のファイルを全部事務所に忘れて来たことがあったんです。一瞬焦ったんですが、会社のサーバーにそのファイルを保存していたことを思い出して、ホットスポットに駆け込んでダウンロード。間一髪セーフでした。重いファイルだったので、PHSなんかだと間に合わなかったかもしれませんね。」



ワインセラーの前で、インターネットを使って情報収集。今キープしているボトルを見ながら、これから買うボトルの情報を収集している。

柿崎さんの無線LANライフ

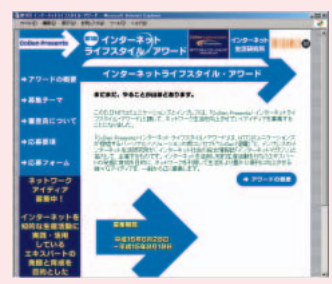


まだまだ、やることはやまほどある

無線LANという技術が発展することで、インターネット生活に新たな価値が現れることはわかったらうか。ただし、この価値はただ無線LAN技術という素材を利用しただけでは生まれてこない。今回紹介した例で言うと、IP電話サービスを使って、無線LANという素材を料理することで「IPネットワークを使った定額の携帯電話」という新しい価値が生まれている。つまり、すでに素材=技術はそろっている。あとは、それを価値あるものに変える新たな料理方法を考えるだけだ。料理方法さえ出そろえば、現在ある素材=技術が、我々の生活や仕事に大きな変化をもたらしてくれる。

今回の記事をヒントに「これこそ革命を起こす料理方法だ」と思いついたら、ぜひ、インターネット生活研究所のホームページに掲載された「CoDen presents/インターネットライフスタイル・アワード」の募集要項を見てもらいたい。ここ

では、ネットワーク生活を向上させていく、その料理方法を随時募集している。インフラや技術などの素材は整った。あとは、その素材をどう料理して、ライフスタイル、ワークスタイルに革命を起こすかだ。その最後のピースを私たちと一緒に考えてほしい。インターネット技術という素材には、まだまだやること山ほどあるのだから。



「CoDen presents/インターネットライフスタイル・アワード」
URL <http://internet.impress.co.jp/iil/award/>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp